

## 感情・人格心理学

《担当者名》上河邊 力

## 【概要】

人格心理学は、人間の個人差や性格形成のメカニズムを科学的に探求することを目的とした科目である。本授業では、人格理論、性格測定的手法、遺伝と環境の影響、さらには人格と心理的健康との関連について学ぶ。この科目は、臨床心理学におけるクライアントの特性理解や支援計画の策定において重要な基盤を提供する。また、人格理論は心理療法のアプローチを選択・適用する際の指針ともなる。公認心理師養成課程において、本科目は心理アセスメントや介入の実践的スキルを補完する役割を担っている。

## 【学修目標】

人格心理学の基本理論を理解するために、主要な人格モデルや研究成果について理解する。  
 人格評価のスキルを身につけるために、基本的な性格測定法について理解する。  
 ビッグファイブ理論やその他の人格モデルを説明し、それぞれの特徴や違いを述べられる。  
 性格検査の結果分析、臨床的な文脈での活用法に触れる。  
 子ども、青年、成人それぞれの発達段階における人格発達の課題を理解し、臨床現場で活用可能な支援方法を提案できる。

## 【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	人格心理学への導入	パーソナリティ心理学が何を学ぶ学問なのか、全体像を掴む。 日常で使う「性格」という言葉と、心理学で使う「パーソナリティ」という言葉の違いを理解する。 なぜ私たちは他人の性格を推測するのか、その心の仕組み(バイアス)を体験的に知る。	上河邊 力
2	類型論と特性論	「類型論」の考え方を知る。 「特性論」の考え方を知る。 2つのアプローチのメリット・デメリットを理解し、その違いを説明できるようになる。	上河邊 力
3	精神分析学的人格理論	フロイトの「パーソナリティ発達理論」の各段階を説明できる。 「防衛機制」を複数、具体例で挙げられるようになる。 「集会的無意識」と「元型」の概念を理解する。	上河邊 力
4	学習、人間性、認知理論的人格理論	「学習理論」の考え方を理解する。 「人間性心理学」の考え方を理解する。 「認知論」の考え方を理解する。 これらのアプローチが、精神分析とどう違うのかを説明できる。	上河邊 力
5	特性論の探求-5因子モデルの発見	「語彙仮説」の考え方を理解する。 「ビッグ・ファイブ」の5つの因子を全て説明できるようになる。	上河邊 力
6	5因子モデルの各論とHEXACOモデル	ビッグ・ファイブの各因子が、「ファセット(下位側面)」に分かれることを理解する。 各ファセットのレベルで、自分のパーソナリティをより詳細に分析できるようになる。 「HEXACOモデル」と、その第6の因子を説明できる。	上河邊 力
7	人間-状況論争と相互作用論	「人間-状況論争」の論点を理解する。 ウォルター・ミシエルの批判と、状況の力の重要性を説明できる。 「相互作用論」の考え方を、具体例を挙げて説明できるようになる。	上河邊 力
8	パーソナリティのアセスメント-信頼性と妥当性	心理アセスメントにおける「信頼性」の重要性を理解する。 再検査法、内的整合性など、信頼性を検証する具体的な方法を説明できるようになる。	上河邊 力

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		「妥当性」の重要性を理解し、内容的妥当性、基準関連妥当性、構成概念妥当性といった種類を説明できるようになる。	
9	パーソナリティのアセスメント - NEO-PI-Rの実施と解釈	NEO-PI-Rが「何を」測る検査かを知る。 「正しい実施と採点方法」を学ぶ。 「プロフィールの解釈」の基礎を習得する	上河邊 力
10	人格の形成過程 -遺伝と環境	パーソナリティ形成における「遺伝」と「環境」の役割を理解する。 行動遺伝学の主要な研究法(双生児研究、養子研究)を説明できる。 遺伝と環境の相互作用・相関という現代的な考え方を説明できる。	上河邊 力
11	人格の形成過程 -発達	パーソナリティの生物学的土台である「気質」について理解する。 生涯におけるパーソナリティの「安定性」と「変化」のパターンを説明できる。 エリクソンの心理社会的発達理論の8つの段階を概説できる。	上河邊 力
12	パーソナリティと対人関係	対人魅力のメカニズム(類似性と相補性)を理解する。 成人のアタッチメント・スタイル(愛着)と恋愛傾向の関係を説明できる。 ビッグ・ファイブが人間関係の「質」に与える影響(俳優効果・パートナー効果)を理解する。	上河邊 力
13	パーソナリティと心身の健康・ウェルビーイング	パーソナリティと身体的健康(寿命・疾患)の関係を理解する。 ストレスとコーピング(対処)におけるパーソナリティの役割を理解する。 主観的ウェルビーイング(幸福感)とパーソナリティの関連を説明できる。	上河邊 力
14	パーソナリティの適応と不適応	「適応」と「不適応」を分けるものは何か、その基準を理解する。 パーソナリティ障害の全体像(クラスター分類)を把握する。 代表的なパーソナリティ障害の特徴と、その背景にある心理を説明できるようになる。	上河邊 力
15	パーソナリティ心理学のこれから	マクアダムスの「パーソナリティの3層モデル」を用いて、これまでの知識を体系化できる。 「デジタル・フェノタイピング」や「WEIRD問題」など、現代心理学の最先端課題を説明できる。	上河邊 力

## 【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部(研究科)、学環、学校の授業実施方針による

## 【アクティブ・ラーニング】

導入している

## 【評価方法】

定期試験100%

(ただし、常識的な態度で受講し、期末試験受験資格を満たす場合に限る)

## 【教科書】

小塩 真司『パーソナリティ心理学』サイエンス社

オリジナルの配布資料をGoogle Classroomで配布する

## 【参考書】

榎本 博明『わかりやすいパーソナリティ心理学』サイエンス社

鈴木 公啓(編)『要説パーソナリティ心理学: 性格理解への扉』ナカニシヤ出版

鈴木 公啓, 荒川 歩, 太幡 直也, 友野 隆成『パーソナリティ心理学入門 ストーリーとトピックで学ぶ心の個性』ナカニシヤ

## 出版

### 【備考】

各学生がすべての講義に出席することを前提に講義を進める。講義に欠席した場合、各自の責任において、その講義で配布された資料の有無を確認し、次の講義までに適切な対応を取ること。また、欠席回数については各自で責任をもって管理すること(欠席回数についての問い合わせには原則応じない)。

- ・ Google Classroomを通じて学習課題を提示する。
- ・ Google Classroomを利用したオンデマンド型授業を行う。
- ・ Google forms等を通じて学生からの質問、意見を収集し、次回の授業で紹介する。
- ・ Mentimeterを通じてアンケートやワークを行う。

この講義は心理科学部臨床心理学科の研究協力者プール・クレジットシステムの対象である(詳細については初回講義時にて説明)。

### 【学修の準備】

各回のシラバスを参考に、配布資料と教科書の関連ページに事前に目を通し予習する(2時間)。

次回講義までに、前回の講義で用いた資料について、参考書などで内容を補完したうえで重要項目を中心に暗記する(2時間)。

### 【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP3 心理学の基礎やそれらを応用発展させた心理科学と周辺諸科学に関する知識・技術を習得している。

DP4 公認心理師の活動に関連する知識・技術を習得している。

上記、心理科学部ディプロマ・ポリシーに適合している。

### 【実務経験】

公認心理師、臨床心理士

### 【実務経験を活かした教育内容】

医療機関(精神科、小児科)や教育機関(小・中学校)における公認心理師としての実務経験を通して得た知識・技術・態度等を活用し、実践的な教育を行う。

### 【その他】

この科目は主要授業科目に設定している